

Vol.452

サイア 黒毛和種特別号

勝早桜5



一般社団法人
ジェネティクス北海道



H黒-187 勝早桜5の軌跡

今年9月10日、当団を代表する黒毛和種種雄牛であるH黒-187勝早桜5が15歳2ヶ月で永眠いたしました。ここでは道央種雄牛センターで種雄牛としての生涯を過ごした彼の軌跡をご紹介します。



彼の種雄牛としての精液生産は2009年から始まり、2021年までに約66万本を生産しました。最高採取精子数は2016年8月1日10歳のとき、233億(2回採取合計)を記録しています。これは週2日、各2回の精液採取では当団の和牛の中で最高記録になります。今だから言える話ですが、後代検定成績判明前までは彼の凍結精液の在庫はわずかしかなかった。そして2012年に開催された第9回当団枝肉共励会で彼の能力が開花し大ブレイクし、慌てて凍結精液の生産を開始しました。もっと多くの凍結精液を生産しておけばよかったととても後悔した記憶があります。よく食べる上に身体も丈夫でとても多くの精液が採取できるため「生涯精液生産本数100万本も夢ではない!」という期待もありました。

彼の若い頃を知る種畜管理課職員の話では、人や小さな牛には何もしない一方で自分より大きな成牛に対してはライバル意識が芽生えるのか、ちょっかいをかけに行くことが多かったそうです。他にもパドックで地面に穴を掘る癖があったため、毎朝彼が掘った穴を職員が埋めるという作業があり大変だったとか。また先述したとおり身体も驚くほど丈夫で、特に肢蹄に関しては負担が大きい精液採取を週2日各2回、5年間ずっと続けていても怪我をしたり痛めたりしたことは一度もありませんでした。



病気もせず日々とても元気に過ごしていた彼ですが、2017年ある日を境に餌を食べなくなり酪農学園大学付属動物医療センターに診察していただいた結果、消化器疾患と診断され2017年5月6日に入院、彼の闘病生活が始まりました。



酪農学園大学での闘病中の様子

入院中に彼の世話をしに通っていた職員に当時の話を聞くと、「入院当初は大変深刻な状態だったので毎朝牛房を覗くのが怖かった。」と話していました。彼は入院日から7月頃までの約2か月間、毎日24時間の点滴やルーメン液の経口投与という過酷な闘病生活を続けました。7月初旬から体力作りのため、体調を見ながら入院病棟周辺で引き運動を開始しましたが、配合飼料や乾牧草を食べることはありませんでした。

そんな状態の彼でしたが治療と体力作りを根気よく続けた結果、8月半ばには粉碎した配合飼料1kgにルーサンヘイを混合したものを食べられるようになりました。ただ、困ったことに通常の乾牧草は与えても少し口をつける程度でした。そこで近隣の農家さん数軒から数種類の乾牧草を譲ってもらい、とにかく彼が食べる草を探しました。そうして集めた乾牧草の中に彼が食べる草があり、それを見つけた時には職員一同安心しました。飼料を食べられるようになると彼の体調も段々と快方に向かい、8月末頃には従来の給与飼料を食べられようになり、治療も日中の点滴のみになりました。



退院し牛房に戻る勝早桜5

彼の体力も戻ってきたところで、精液性状の確認とリハビリを兼ねて精液採取を開始し、入院中に精液生産ができるまでに回復したことを確認しました。そして遂に2017年9月19日、酪農学園大学附属動物医療センターの皆さまの長期にわたる懸命な治療を受けた彼は無事退院することができました。

退院当日、牛房に戻ると隣接牛房で顔なじみのJB-24 北乃大福をなめて再会を喜んでいるかのような姿が印象的でした。退院後の彼は病気が落ち着き食欲も回復したものの全快していたわけではなく、以前のような皮膚の張りもなく精液採取の時の力強さにも陰りがありました。当時彼の様子を見ていた種畜管理課職員は「病気をした臓器付近の毛の色が白く変わっていて、言葉が話せない彼が患った病気の恐ろしさを目で見て痛感した。」と話しています。

道央センターに帰ってきた彼の飼養管理はより一層気を遣い、乾草の給与量やタンパク質成分などを細かく計算して1回ずつ袋詰めして用意していました。体重も週1回必ず記録し異変があればすぐに気づけるよう細心の注意を払っていました。乾草に関してはとにかく好き嫌いが激しく、嫌いな乾草は牛房に引きずり込んで散らかして食べない時もありました。職員の根気強い管理により彼の調子もだんだんと良くなっていきました。



精液採取の順番待ち



砂遊びをする勝早桜5

大病をした後でも肢蹄の丈夫さは健在でパドックで砂遊びをしたり歩き回ったりとよく運動しており、削蹄担当の職員は「運動しすぎて蹄の摩耗が激しく、削蹄するところがないくらいだった。」と話しています。また、台牛にうるさく精液採取の際には気に入った若い牛にしか絶対に乗駕しないような頑固な一面もあり種畜管理課職員も苦労していたようです。また、歳のせいもあるのかたまにどうしても気が乗らず牛房に帰りたいと態度で訴えてくる日もありました。職員も彼との付き合いが長いため、毎回やる気を引き出すように声をかけて彼の身体に無理がないようにタイミングを合わせて精液採取を行っていました。その



退院後の精液採取の様子

甲斐もあり、入院前に比べて精液採取量は少なくなっていましたものの、彼自身は日に日に元気になっていきました。彼の頑張りもあって、退院してから2021年の夏の終わりまでは彼がどうしても気が乗らないという日を除いて順調に精液を生産することができました。

退院してからずっと私たちの期待に応えて頑張ってくれていた彼ですが、高齢であることと今年の猛暑の影響もあり8月半ばに入ってから次第に元気がなくなっていきました。それまで旺盛だった食欲も日に日になくなっていき、9月の初めには起立不能の状態になってしまいました。勝早桜5の主治医である小岩先生と当団職員の必死の治療が続いていましたが2021年9月10日15時30分、多くの職員に見守られながら永眠いたしました。



起立不能になった勝早桜5

大病を患いながらも長年活躍し種雄牛として数多くの功績を残してくれた勝早桜5には感謝してもしきれません。また、私たち職員は彼から多くの経験と学びを得ました。彼は病気やその対処法をはじめ、個体管理と種畜管理の大切さまで改めて教えてくれました。勝早桜5は人を育てた牛でもあったといえます。これからも病気をさせないことはもちろん、病気の早期発見・治療を心がけ素晴らしい種雄牛を育てていきたいと思います。勝早桜5の治療をしてくださった小岩先生をはじめ酪農学園大学附属動物医療センターの皆さま、本当にありがとうございました。

(道央種雄牛センター 福地 翔子)



お疲れ様でした。ありがとう。

不滅の種雄牛 勝早桜5

～大病から現役復帰した奇跡の名牛～



ジェネティクス北海道アドバイザー
こい わ まさてる
小岩 政照 獣医学博士

1975年 酪農学園大学獣医学科卒業後、
酪農学園大学獣医学科内科学教室助手
1980年 (旧)千歳農業共済組合 診療係長
1993年 (旧)石狩農業共済組合 江別診療所長、
のち北部統括所長
1995年 酪農学園大学 附属家畜病院
助教授を経て、教授
2004年 酪農学園大学 獣医学部 教授(副病院長)
2011年 酪農学園大学 附属農場
農場次長を経て、農場長
2014年 酪農学園大学 フィールド教育研究センター
副センター長(2015年3月迄)
2018年 酪農学園大学 獣医学類退職、
キャトル リサーチ センター(CRC)を設立

勝早桜5は精液性状が良く受胎率が安定しており、産子も大きいことから生産者の評価が高い種雄牛の一頭でした。また、彼は10歳になる2017年3月までほとんど治療歴が無く、ジェネティクス北海道が行っている健康診断を目的とした代謝プロファイル検査(血液検査)でも、異常値を示したことの無い食欲旺盛で健康な種雄牛として飼養されていました。

10歳10ヵ月の2017年4月20日朝、突然、血様の下痢便を排泄して食欲廃絶し危篤状態に陥りました。彼はその後、約1ヵ月間の危篤状態を乗り越え、合計約6ヵ月の闘病を経て奇跡の現役復帰を成し遂げました。彼が大病から奇跡的に現役復帰するまでの経時的な経過を以下に紹介します。

■2017年4月20日 初診日

昨日まで異常はなく、4月20日朝、突然に皮温低下、第一胃運動停止、腸蠕動減退、血様下痢を排泄して食欲廃絶の状態に陥る。また、血液検査から重篤な消化器疾患に陥っていると診断。血様下痢症の原因を解明する目的で、便の病原微生物検査と飼料マイコトキシン検査を行ったが原因を特定するには至らなかった。

重篤な病態に対する治療として輸液を一日5～10リットルの24時間持続点滴、獣医用宮入菌末と乳酸菌、木酢炭素末の混合剤を一日2回の経口投与、健康牛から第一胃液一回3～5リットルを一日2回採取し、食欲が正常に回復した151病日(9月18日)まで第一胃液移植を連日行った。

■2017年5月6日 第16病日

やや便性が改善するも活気が無く、食欲廃絶が持続して症状の改善が認められず、同日に酪農学園大学動物医療センターへ入院させて24時間の点滴輸液と臨床観察を継続した。

朝夕2回(6時30分、16時)の飼料給与とベットメイクは、ジェネティクス北海道の場長の下でジェネティクス北海道

職員が担当。ジェネティクス北海道の場長をはじめとする職員の献身的な看護に感謝申し上げたい。

■2017年5月9日 第19病日

発病後初めて乾草に興味を示して数口採食した。その後は一進一退を繰り返して小康状態が継続した。

■2017年7月5日 第76病日

顕著な症状の改善認められず、依然として不安定な食欲が継続した。

■2017年7月20日 第91病日

不安定な食欲が持続するも反芻と活気が漸次改善する傾向を示した。

■2017年8月5日 第107病日

臨床症状に大きな変化はなかったが、ジェネティクス北海道職員が朝夕の2回引き運動を行ったところ、最初は嫌がっていたが徐々にではあるが運動に対する積極性が出てきた。

■2017年8月20日 第122病日

第一胃運動と腸蠕動がほぼ正常に改善し食欲と活気が漸次回復した。

■2017年9月18日 第151病日

食欲がほぼ正常に回復し、貧血とアルブミン低下以外の血液所見が正常値内に改善したので退院させる。

退院後は徐々に採精回数を増加させ、退院4ヵ月以降、現役復帰。その後、生殖器障害により一時採精を制限していましたが、2021年7月まで体調を見ながら採精を継続しました。

本年7月に猛暑による熱射病を発病して体調を崩し、衰弱が進行して2021年9月10日に15歳2ヵ月で永眠しました。

約1ヵ月間食欲廃絶が続き、その間大量輸液と経口投薬、第一胃液移植の治療を連日行って治癒し現役復帰した症例の報告はほとんど見当たりません。大病から治癒した要因としては病態の改善と栄養補給を目的にした24時間の点滴輸液と投薬、第一胃液移植による治療効果もありますが、勝早桜5自身の生きようとする生命力が大きいでしょう。加えて、治癒した最も大きな要因は、必ず助けるという信念を持って管理を行ったジェネティクス北海道の場長と職員の献身的な看護であったと思います。私自身、彼に対する治療を通して看護の大切さを改めて感じさせられました。

長い闘病から奇跡的に現役復帰した勝早桜5は長く後世に語り継がれていくことでしょう。

平成21年春、造成検討委員会（後代検定候補種雄牛の意見聴聞会議）にて、当時3歳の“候補牛 勝早桜5”と対面している佐藤氏。「当時はまだ本州から導入した牛が多いなか、北海道産で83.3点と体型に優れていた。あの頃、勝忠平はまだ産子も少なく、種雄牛の父としては時期尚早という意見も出たが、この素晴らしい体型はぜひ検定にかけろべきだと思った」と振り返ります。その後、一貫肥育農家として検定事業に協力した際も雌が2頭生まれたそうですが「肥育を中断して繁殖として残したい!」と思うぐらい良い牛だったそう。産次を重ねても母体の体型が崩れず、分娩事故も少ない点が気に入る、今も繁殖雌牛には勝早桜5の血液が多く残っています。

「大型・丈夫・長持ちの三拍子が揃っていて、厳しい冬を越せる北海道らしい牛だった。息子の勝吾や英貞も使っているが、こちらも体型がよく受胎の良さも受け継いでいると感じる。北海道のみならず全国で、これからも世代をつないでいってほしい。」

何か光るものを“持っていた”からこそ、後代検定を実施する運びとなった勝早桜5、その第一歩には佐藤会長をはじめ、北海道和牛の地位向上に尽力した全道の肉牛関係団体の方々がありました。



勝早桜5は北海道和牛の イメージを変えた一頭

北海道和牛振興協議会 会長

今金町 佐藤 弘一 氏

生産者の声

飼いやすく手のかからない 良い牛だった

幕別町 札内 二瓶 義則 氏・満枝 氏



最優秀賞の「三夫」

枝肉重量:466kg ロース芯面積:82cm² BMS No.12

この枝肉を皮切りに、勝早桜5への注目度が
一気に高まった。

勝早桜5の華々しい活躍の幕開けには、平成24年開催の第9回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会 後代検定牛の部で最優秀賞を獲得した勝早桜5産子「三夫」を抜きにして語ることはできません。会場での枝肉を見て、その場で精液を注文して帰った方もいらっしゃるのか。この「三夫」の肥育者である二瓶ご夫妻。「仔牛の時は小さかったが、本当によく食べて、食いどまりがなかった。とにかく“食べ続けている”という印象が強く残っており、手がかからなかった。」と思ひ出されます。

「勝早桜5は繁殖農家としても儲けさせてもらった1頭。産子はどれも飼いやすく、平均的にサイズがあり、市場性も安定していた。」

繁殖と育成販売もしている肥育農家の二瓶ご夫妻は現在、後継牛である英貞にも期待しています。「ちょうど授精をしているところ。肉質が判明するのはこれからだが、勝早桜5の良いところを受け継いでほしい。」

今なお、素晴らしい肥育成績を連発している勝早桜5、そのスタートには早期に種雄牛の魅力を引き出してくださる後代検定事業協力農家の方々のご協力が礎となっていました。

「勝早桜5」が遺したもの



勝吾の子(勝早桜5の孫)と藤川氏

(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場
肉牛研究部 肉牛グループ 研究主幹

藤川 朗

1986年帯広畜産大学卒業。

道立新得畜産試験場・道総研畜産試験場・上川農業試験場天北支場を経て、
2017年畜産試験場肉牛グループ



去る2021年9月10日に黒毛和種雄牛「勝早桜5」(H黒-187)が15歳で亡くなりました。道立畜産試験場で育成され、ジェネティクス北海道の現場後代検定で選抜された「勝早桜5」は、発育・産肉能力・体型に優れ、生後10年以上を経過しても多くの生産者から好評を得ており、最近の枝肉共励会でも上位入賞するなど活躍を見せておりました。ここでは「勝早桜5」が本道の和牛生産に遺した影響について振り返ります。

「勝早桜5」が種雄牛になるまで

「勝早桜5」の5って何なの?と、今でもよく聞かれるのですが、これは「勝早桜5」が種雄牛「勝忠平」と優良雌牛「なつ(父:安平)」の計画交配により生まれた受精卵産子だったからです。畜産試験場では受精卵の性判別・2分割技術を駆使することにより、同時期に一卵性双子2組を含む全きょうだい雄子牛10頭の生産に成功しました。その中の5番目の子牛が「勝早桜5」だったというわけです。

10頭のうち、双子のペアを持ち発育・体型に優れた「勝早桜5」が種雄牛候補として選ばれ、直接検定では1日の増体重が1.29kgと優れた結果を示しました。また、残り9頭については、約29ヶ月齢程度まで肥育し産肉成績を調べました。この中でも特に「勝早桜5」の一卵性双子の枝肉成績が良いことと直接検定の増体成績が決め手となって、ジェネティクス北海道の現場後代検定実施牛に選んでいただき、その成績が優秀であったことから種雄牛として選抜されました(当時の歴代トップの成績)。

ゲノム育種価の情報がなかった頃は、種雄牛候補と遺伝的に同一な双子の産肉能力を見ることが候補牛の産肉能力を推定するのにベストな方法でしたが、「勝早桜5」については卵分割技術により本牛と全く遺伝的に同一な肥育牛が得られたということが幸運でし

た。これを支えたのが性判別や受精卵の2分割技術といったバイテク技術であり、畜産試験場ではこれらの技術をさらに進め受精卵ゲノム育種技術等の開発につなげております。

トップを走り続けた「勝早桜5」の遺伝的能力

「勝早桜5」の育種価が初めて公表されたのは2013年ですが、ほぼ現場後代検定のデータのみによる育種価評価で脂肪交雑の順位が4位であったため注目されました。またロース芯面積、バラの厚さおよび枝肉重量も高い能力を示しました。そして、現場後代検定成績と育種価の結果を受けて、北海道和牛振興協議会により、2013年度の北海道推奨種雄牛として選定され、多くの生産者の皆さまに「勝早桜5」を使っていただけようになりました。それから8年が経過し、2万頭を超える肥育データに基づく最新の評価ではどの形質においても育種価の数値は上がっており、順位は落としておりますが20位程度をキープし、バランスのとれた能力を示しています(表1)。育種価指標としては現在脂肪交雑トップ2の「福之姫」「白鵬85の3」と同じく「HHHCHH」にランク付けされています。また、北海道独自の「コザシ」の育種価評価では第2位と優れており、まさに勝忠平の増体・強健性と安平の枝肉の充実、コザシの良いところを受け継いだといわれる所以かと思えます。

評価時期		枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	バラの厚さ(cm)	歩留基準値(%)	脂肪交雑	産肉成績(頭)
2013年(6月)	育種価順位	72.3 94	18.87 11	1.58 7	3.08 20	2.64 4	42
2021年(7月)	育種価順位	91.9 35	25.19 16	1.76 12	3.67 27	3.10 22	20,388

表1:「勝早桜5」の育種価の推移(2013年→2021年)

道内に受け継がれる「勝早桜5」の特徴

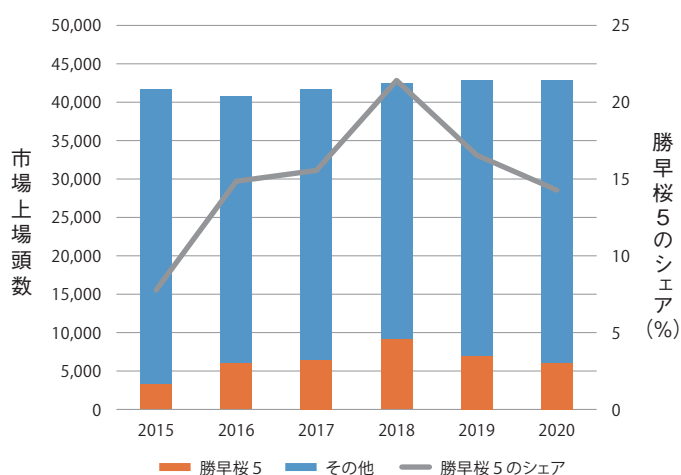
関係者の皆さまのご尽力により、「勝早桜5」は道産種雄牛としては初めて10万頭を超える生産頭数の種雄牛となりました。また、最近では道内に現存する繁殖雌牛の父牛としては2番目の多さであり、新規登録雌牛と子牛登記の父牛としてはトップです(表2)。今後、これらの「勝早桜5」の遺伝的能力を受け継いだ雌牛の活躍が期待されるところです。

順位	現存雌牛 (70,197頭中)	新規雌牛 (10,767頭中)	子牛登記 (75,099頭中)
1	安福久 7,447	勝早桜5 1,419	勝早桜5 9,426
2	勝早桜5 5,961	美国桜 1,123	福之姫 8,300
3	百合茂 5,310	幸紀雄 732	愛之国 5,007
4	美国桜 3,701	百合白清2 586	秋忠平 3,701
5	勝忠平 3,567	花国安福 541	美津照重 3,028

(資料:道と牛振興協議会・道酪農畜産協会「北海道黒毛和種年度集計」2021年)

表2:種雄牛別登録頭数(2020年度トップ5)

子牛市場へは黒毛和種では2014年から本格的に出荷されるようになりましたが、全出荷牛に占める「勝早桜5」産子の割合は年々上昇し、2018年には約2割以上の出荷割合となりました(図1)。「勝早桜5」産子の販売総額は乳用交雑種も含めてこの10年間で470億円を超え、とくに最近では市場平均より高く落札される傾向があり、市場価格の底上げに貢献していると思われる。



(資料:ホクレン家畜市場情報)

図1:子牛市場上場頭数の推移(2015-2020年)

「勝早桜5」産子の飼いやすさ

生産者や関係者の皆さまから「勝早桜5」の産子は飼いやすい、という話をよく伺います。たしかに生時体重も概ね35~40kg程度で適度な大きさです。子牛市場出荷時の日齢体重も大きく、枝肉重量の育種価が

100kg程度あり増体の良いとされる種雄牛の中でもトップです(図2)。まさによく食べ元気にすくすく育つ「勝早桜5」産子の特徴を表したものだといえるでしょう。また、ご承知のように多くの共進会で「勝早桜5」産子が出陳されて好成績を上げており、最近現場後代検定成績が良好で選抜された「英貞」(H黒-293)が第11回全共(2017年)で優秀な成績を収めたことは記憶に新しいところです。その他にも今年の各地の枝肉共励会での上位入賞など活躍は続いております。

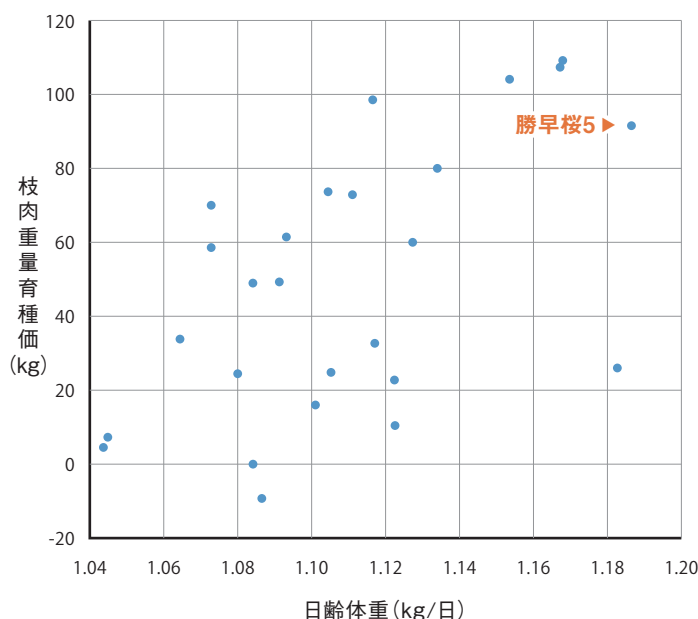


図2:子牛市場出荷時の日齢体重(去勢)と枝肉重量育種価の関係(2014-2020年)

最後に

このように「勝早桜5」が北海道和牛に大きな貢献ができたのも、道産種雄牛を活用し保留するための地域や北海道レベルでの取り組みがあったからこそと思います。「勝早桜5」を使い続けてくださった生産者・関係者の皆さまに感謝するとともに、長年にわたりこの種雄牛を繋養し精液製造・販売にご尽力いただいたジェネティクス北海道の皆さまにも改めて感謝申し上げます。

北海道の種雄牛造成事業は2009年度で中止されていましたが、「勝早桜5」の活躍の後押しもあり、道産種雄牛生産へのニーズの高まりを受けて、畜産試験場での種雄牛造成事業を今年度より開始することとなりました。北海道独自の種雄牛づくりを目指すべく関係者一同準備を進めておりますので、今後ご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

勝早桜5 共進会・共励会 での功績

きみえ30号

血統:勝早桜5 × 百合茂

出品者:豊頃町(株)武隈ブリーディングファーム様

①第17回北海道総合畜産共進会 群部門 最優秀賞、第9部母系群 首席

みるく2号(子)(勝早桜5 × 平茂晴)

みるく号(母)(平茂晴 × 平茂勝)

出品者:帯広市/小森 隆寛 様

②第31回北海道肉用牛共進会 第8部父系群 首席

さくら号(勝早桜5 × 安福久)、ももこ号(勝早桜5 × 安糸福)

きき号(勝早桜5 × 北平安)

出品者:【さくら号】今金町/村瀬 一人 様

【ももこ号】今金町/佐藤 弘一 様

【きき号】今金町/佐藤 弘一 様

さくら号は第2部、きき号は第5部でも主席

③第11回全国和牛能力共進会 宮城大会 第7区総合評価群 1等賞1席

ひさしげ4号(勝早桜5 × 安福久)、みはや号(勝早桜5 × 金幸)

さくらりゅう号(勝早桜5 × 藤桜)、はやひさかつ号(勝早桜5 × 安福久)

出品者:【ひさしげ4号】幕別町/斉藤 雅登 様、【みはや号】池田町/多田 隆一 様

【さくらりゅう号】豊頃町/安藤 誠 様、【はやひさかつ号】池田町/清水 孝悦 様



第17回北海道総合畜産共進会 準最高位賞
未経産部門 最優秀賞
審査員特別賞 体積・均称賞 後駆賞
第1部未経産牛 主席

第36回十勝和牛枝肉共励会 令和2年12月5日 | 去勢 32ヶ月齢

最優秀賞



血統:勝早桜5 × 光平照 肥育者:上士幌町/(株)延与牧場 様
枝肉重量:722kg ロース芯面積:100cm² BMS No.12 格付:A-5

仙台食肉市場業務開始46周年記念枝肉共進会
第1部黒毛和種(去勢)の部 令和3年7月7日 | 去勢 34ヶ月齢

最優秀賞



血統:勝早桜5 × 安福久 肥育者:宮城県/日下 平一 様
枝肉重量:696kg ロース芯面積:87cm² BMS No.12 格付:A-5

第60回「名人会」肉用牛枝肉研究会 令和元年8月28日 | 去勢 30ヶ月齢

最優秀賞



血統:勝早桜5 × 安福久 × 北国7の8 肥育者:茨城県/櫻井 貴博 様
枝肉重量:558kg ロース芯面積:111cm² BMS No.12 格付:A-5

第10回「名人会」肉用牛枝肉共励会
第2部導入牛の部 令和3年2月26日 | 去勢 32ヶ月齢

名誉賞



血統:勝早桜5 × 安福久 肥育者:茨城県/(株)茨畜連パイロットファーム鈴田牧場様
枝肉重量:544kg ロース芯面積:95cm² BMS No.12 格付:A-5

写真提供:株式会社 肉牛新報社



第33回横浜食肉市場ミートフェア
第2部和牛 令和3年7月16日

去勢 28ヶ月齢

名誉賞



写真提供:株式会社 肉牛新報社

血統:勝早桜5 × 美国桜 肥育者:幕別町/(株)ノベルズ肥育センター様
枝肉重量:652kg ロース芯面積:110cm² BMS No.12 格付:A-5

平成30年度第16回月例牛枝肉共進会
去勢の部 平成31年1月22日

去勢 30ヶ月齢

名誉賞



血統:勝早桜5 × 安福久 × 百合茂 肥育者:宮城県/(株)川村ファーム様
枝肉重量:605kg ロース芯面積:101cm² BMS No.12 格付:A-5

第18回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共協会
一般牛の部 令和3年10月2日

去勢 28ヶ月齢

名誉賞

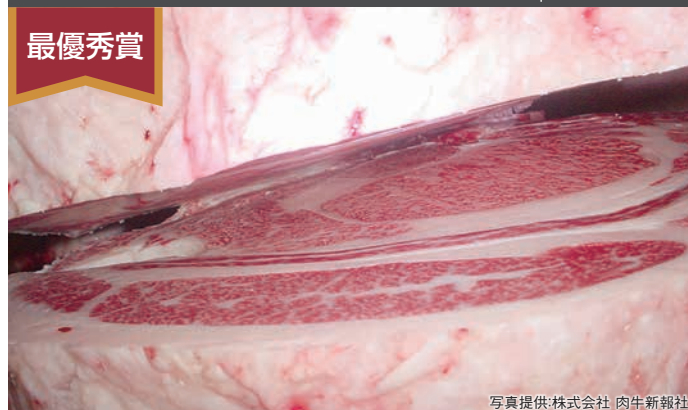


血統:勝早桜5 × 安福久 × 勝忠平 肥育者:富良野市/(有)ささき農畜産様
枝肉重量:511kg ロース芯面積:72cm² BMS No.12 格付:A-5

令和3年度第50回全畜連肉用牛枝肉共進会
黒毛和種雌牛の部 令和3年10月18日

雌 29ヶ月齢

最優秀賞



写真提供:株式会社 肉牛新報社

血統:勝早桜5 × 光平照 肥育者:帯広市/(株)ノベルズ様
枝肉重量:522kg ロース芯面積:75cm² BMS No.12 格付:A-5



「勝早桜5」 産子の登録状況

一般社団法人北海道酪農畜産協会
家畜登録改良部 部長 岸 大輔

まさに“ノーマーク”であった「勝早桜5」は、GH共励会後代検定枝肉展示において強烈なインパクトでデビューし、その後の活躍は皆さんのご存じのとおりです。

北海道の和牛改良に大きく貢献した勝早桜5について、その産子の状況を紹介します。

1 勝早桜5

「勝早桜5」は、発育に優れ、伸びが良く、後軀、特に尻の形状と腿の充実の素晴らしい種雄牛でした。資質面では、皮膚が薄くゆとりがあり、種雄牛では特異であったと記憶しています。

本牛のゲノム構成を見ると「安平」を代表とするグループの割合が最も高く、次いで「平茂勝・第20平茂」を代表とするグループとなり、肉質(BMS・コザシ)の良さは「安平」から、発育・枝肉重量は「平茂勝・第20平茂」から受け継がれたと推測します。また、本牛の直接検定の成績からも増体性の能力が高いことがうかがえます。

2 生産状況

産子の生産状況は、令和3年9月時点全国で10万頭を超えており、息牛となる種雄牛も全国で34頭が生産されています。

表1. 勝早桜5 生産状況(全国)

登録頭数	登録牛頭数
100,142	10,763

表2. 勝早桜5 生産状況(北海道)

年度	登録頭数	登録牛頭数(推移)
平成24年	4	
平成25年	901	
平成26年	4,532	
平成27年	8,154	248
平成28年	9,667	957
平成29年	11,945	2,118
平成30年	11,377	3,495
令和元年	9,761	4,954
令和2年	9,426	5,961
	65,767	

3 登録牛状況

北海道内で審査された雌牛は約7千頭となり、今後も増加の傾向が予想されます。得点の平均値は、 80.9 ± 1.36 となっており、産子の得点分布は表4のとおりです。

本原登録の条件となる81点以上の割合は、47.4%とバラツキも大きいですが83点以上の高等得点割合は約7%と高くなっております。

産子の審査内容を見ると、普

表3. 登録牛の血統(上位10傑)

勝早桜5	安福久	1,550
	百合茂	375
	平茂晴	220
	北平安	182
	第1花国	178
	平茂勝	171
	福栄	163
	隆之国	162
	美津照重	144
	花国安福	134

通より2Pt以上良く評価されている牛の割合が多い項目は【体積・前軀・中軀・後軀】と【資質】であることから、勝早桜5本牛の特徴が後代に引き継がれていることがうかがえます。

表4. 勝早桜5 産子得点(n=7,311)

得点	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88
頭数	106	444	1036	2258	1938	1021	374	101	25	5	1	2

4 産肉能力

産肉能力育種価では、枝肉重量・脂肪交雑においてハイレベル評価(H)であり、その他の形質の高さもさることながら、今後の産肉能力改良の主役となるであろうコザシ(新細かさ指数)や脂肪の質(オレイン酸)の能力も非常に高く、まさに時代に即する種雄牛であったことが証明される形となりました。

表5. 勝早桜5 産肉能力育種価(R3.7評価)

枝肉重量	ロース芯	バラ厚	皮下脂肪	推定歩留	脂肪交雑	オレイン酸	新細かさ指数
H	H	H	C	H	H	A	H

表6. 勝早桜5 BMSごとの産子の枝肉成績(n=20,408)

肉質等級	BMS.No	枝肉重量	ロース芯	バラ厚	皮下脂肪	推定歩留	月齢	頭数
2	2	400.4	47.9	6.3	2.2	72.9	27.4	57
	3	466.3	56.2	7.5	2.4	73.7	28.7	549
3	4	483.7	58.8	7.9	2.6	74.0	28.8	1,532
	5	490.7	60.7	8.1	2.5	74.3	28.9	2,243
4	6	495.5	62.2	8.3	2.6	74.5	29.0	2,951
	7	498.9	64.4	8.4	2.6	74.8	29.1	3,648
5	8	504.1	66.4	8.5	2.5	75.1	29.3	2,527
	9	510.5	68.5	8.6	2.5	75.4	29.4	2,535
	10	512.5	70.9	8.7	2.4	75.8	29.4	1,885
	11	517.1	74.1	8.8	2.4	76.3	29.3	1,399
	12	537.5	83.7	9.0	2.2	77.6	29.5	1,082
全体	7.5	501.8	66.0	8.4	2.5	75.1	29.1	20,408

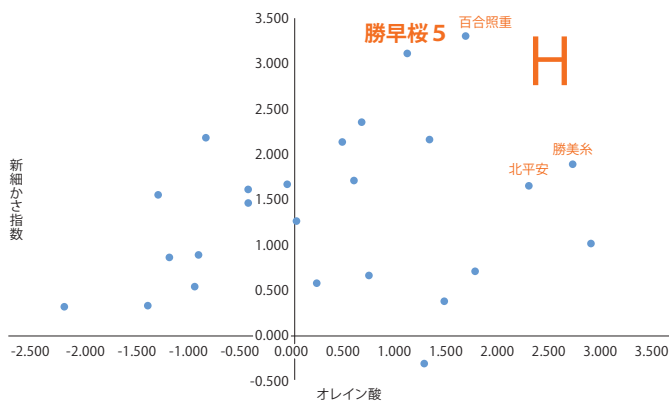


図1. 牛肉のおいしさ関連遺伝的能力評価(2017)

5 最後に

北海道の和牛生産・改良において大きな課題であった道産種雄牛による繁殖雌牛の造成について、勝早桜5が大きな功績を遺してくれたことは生産者・和牛関係者の共通する認識であると思います。今後は、「勝吾」「英貞」などの息子たちが北海道和牛の発展のために活躍してくれることを期待しています。



平成25年9月15日 第30回北海道肉用牛共進会(安平町)
父:勝早桜5群(参考出品) 出品者:道総研畜産試験場

活躍が期待される次世代の息牛たち

母「はつめゆり」は脂肪交雑45位(平成24年3月北海道育種価)にランクされた高育種価雌牛。
初産の去勢肥育(父:糸福(鹿児島))は、A-5、枝肉重量556kg、ロース芯面積69cm²、
BMS No.11。その成績を含む2頭の産子がBMS No.二桁を記録!!
外貌は父である「勝早桜5」に似ており、発育が良く、体伸、前軀幅に富んだ産子が生産
されています。

H黒-264

しょう
勝五ご

勝早桜5×百合茂×安平

一般市場成績

2021年9月17日現在

	全体	去勢28頭	雌39頭
肉質等級4・5率	82.1	78.6	84.6
枝肉重量(kg)	491	475	502
ロース芯面積(cm ²)	63	60	66
バラの厚さ(cm)	8.2	8.3	8.2
皮下脂肪の厚さ(cm)	2.5	2.9	2.3
歩留基準値(%)	74.7	74.1	75.1
BMS No.	7.4	6.8	7.9

- ①平成30年10月17日 東京都中央卸売市場食肉市場 第57回「名人会」肉用牛枝肉研究会
血統:勝吾×安福久×百合茂
肥育者:中富良野町/柴田 知樹 様
枝肉重量:590kg ロース芯面積:95cm²
BMS No.12 格付:A-5 去勢27ヶ月齢
- ②令和2年2月18日 仙台中央食肉卸売市場 令和元年度第15回月例牛枝肉共進会 雌の部
血統:勝吾×安福久×平茂勝
肥育者:宮城県/(有)根元ファーム 様
枝肉重量:519kg ロース芯面積:61cm²
BMS No.12 格付:A-5 雌30ヶ月齢
- ③令和2年2月18日 仙台中央食肉卸売市場 令和元年度第15回月例牛枝肉共進会 去勢の部
血統:勝吾×第7系桜×紋次郎
肥育者:宮城県/(有)根元ファーム 様
枝肉重量:554kg ロース芯面積:79cm²
BMS No.12 格付:A-5 去勢31ヶ月齢
- ④平成30年9月8日 ホクレン十勝枝肉市場
血統:勝吾×安福久
肥育者:中富良野町/愛澤 忠 様
枝肉重量:609kg ロース芯面積:105cm²
BMS No.11 格付:A-5 去勢28ヶ月齢

個体識別番号:13440-8506-7
平成26年1月25日生
黒原5865 82.7点
生産:日高町(有)賀張宝寄山育成牧場

優秀賞
1席



最優秀賞



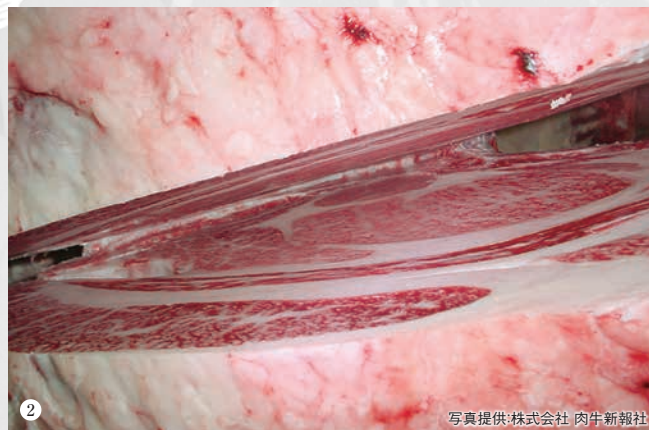
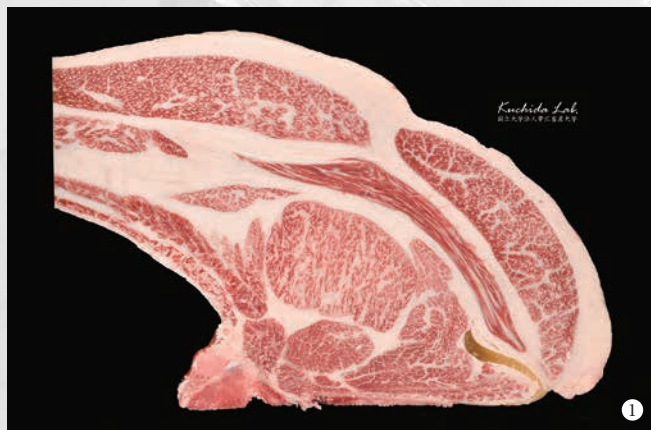
優秀賞





勝早桜5×百合茂×安糸福

個体識別番号:14941-0831-9 平成27年12月17日生 黒原6080 87.8点 生産:更別村 菅野 英夫 氏



写真提供:株式会社 肉牛新報社



- ①令和3年2月6日 ホクレン十勝枝肉市場
血統:英貞×美津照重×百合茂
肥育者:上士幌町/上士幌町農協肥育センター 様
枝肉重量:436kg ロース芯面積:64cm² BMS No.12 格付:A-5 去勢28ヶ月齢
- ②令和3年2月26日 東京都中央卸売市場食肉市場
第10回「名人会」肉用牛枝肉共励会 第2部導入牛の部
血統:英貞×勝忠平×神高福
肥育者:白老町/白老牛改良センター 様
枝肉重量:615kg ロース芯面積:98cm² BMS No.11 格付:A-5 去勢28ヶ月齢
- ③令和3年2月6日 ホクレン十勝枝肉市場
血統:英貞×花国安福×百合茂
肥育者:音更町/山川 克之 様
枝肉重量:546kg ロース芯面積:90cm² BMS No.11 格付:A-5 去勢28ヶ月齢

全国的に注目を集めている英貞

英貞は全共の道内最終選抜にて選ばれ、2017年9月7日から11日まで5日間にわたり宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会「第1区 若雄の部」に出場しました。

英貞がちょうど1歳になる頃の2016年12月初旬から調教を開始。英貞はやんちゃな性格で、歩き出したら止まらず引きずられ、止まってしまうとまったく動かなくなるなど大変苦労しました。

宮城県までの慣れない移動で食欲が落ち、体重が30kg減ってしまったり、審査前日の会場練習では調教を始めた頃のやんちゃな英貞に逆戻りしたりと職員を不安にさせることもありました。しかし、審査当日になると今までの調教の成果を最大限に発揮し、優等賞4席という素晴らしい結果を残しました。

また、英貞は令和元年度 北見管内黒毛和牛振興協議会新規種雄牛推奨交配事業に選定されました。種雄牛の選定は、現場後代検定成績が判明する前のため、種雄牛の血統情報等はもちろんのこと、全きょうだいの枝肉成績や、後代検定材料牛の特長なども重要な検討材料となります。英貞は全共出品牛であったことも決め手の1つとなったようです。

英貞の産子が、2021年5月21日と6月14日に開催された同事業「『英貞』産子特別レース」で一堂に会しました。平均価格も市場平均に比べ高く、牛が揃っている印象を受けました。また発育・体積・特に体の伸びやかさや幅があり、「勝早桜5」の良さを活かしたまま、肩付や骨じまりにおいては「勝早桜5」を超える良いものがあるように見受けられました。

そして、現場後代検定では、BMS No.8.7、枝肉重量498kg、ロース芯面積66cm²、バラの厚さ8.5cmの成績で、平均BMS No.は当団歴代2位を記録し、肉質等級4・5率では当初初となる100%を記録しています。令和3年7月評価の北海道育種価では、育種価指標にてHAHBAH、当団供用種雄牛内で脂肪交雑1位にランクされています。

父の「勝早桜5」と同様に、母の系統を問わず優れた成績を示しており、現場後代検定では斉一性のある枝肉が生産されています。

現場後代検定成績

	全体	去勢15頭	雌11頭
肉質等級4・5率	100.0	100.0	100.0
枝肉重量(kg)	498	509	482
ロース芯面積(cm ²)	66	67	65
バラの厚さ(cm)	8.5	8.5	8.4
皮下脂肪の厚さ(cm)	2.5	2.4	2.7
歩留基準値(%)	75.2	75.3	75.0
BMS No.	8.7	8.6	8.7

H黒-293
英貞
ひで
さだ



H黒-307

勝早桜5×安福久×勝忠平
蓬萊桜

母「なみ」は2産目の去勢肥育(父:安茂勝)で第41回「名人会」肉用牛枝肉研究会にて最優秀賞を受賞(A-5、枝肉重量598kg、ロース芯面積112cm²、BMS No.12)、6産目の去勢牛(本牛全兄)が第54回「名人会」肉用牛枝肉研究会にて優秀賞3席を受賞(A-5、枝肉重量599kg、ロース芯面積96cm²、BMS No.12)を含め、BMS No.12を8頭輩出。そのほかの枝肉もすべて上物を記録し、脂肪交雑13位(令和3年1月北海道育種価)にランクされた高育種価雌牛です。

本牛は、発育が良く、尻幅に富み、資質に優れる気高系種雄牛です。

体伸に富み、資質、骨じまりの優れた産子が生産されています。

個体識別番号: 14512-1584-5 平成28年12月16日生
黒15367 82.5点
生産: 新ひだか町 新ひだか町牛センター



H黒-321

勝早桜5×福桜(宮崎)×平茂勝
博紅葉

母「ふくもみじ」は、脂肪交雑23位(平成29年7月北海道育種価)にランクされ、北海道を代表する高育種価雌牛「もみじ」を祖母に持ちます。3産目の雌肥育(父:安福久)で第50回「名人会」肉用牛枝肉研究会にて優秀賞1席を受賞(A-5、枝肉重量486kg、ロース芯面積88cm²、BMS No.12)、5産目の去勢肥育(父:茂洋)でA-5、枝肉重量660kg、ロース芯面積80cm²、BMS No.12を記録したほか、BMS No.2桁を2頭輩出するなど、すべてで上物の産肉成績を誇ります。

本牛は産肉能力、増体能力の改良に期待する種雄牛です。また、発育、骨味が良く、体上線が強い「勝早桜5」の後継種雄牛です。

発育が良く、体積に富み、均称、資質の優れた産子が生産されています。

個体識別番号: 15572-8285-7 平成29年9月23日生
黒原6225 83.3点 生産: 洞爺湖町 平尾 博氏



H黒-331

勝早桜5×百合茂×安福165の9
北愛莉

母「あいり」は、脂肪交雑45位(平成24年9月北海道育種価)にランクされ、2産目の去勢肥育(父:北勝平1)でA-5、枝肉重量540kg、ロース芯面積75cm²、BMS No.12、本牛全兄は第13回当団黒毛和種枝肉共励会にて名誉賞を受賞(A-5、枝肉重量564kg、ロース芯面積86cm²、BMS No.12)、本牛は北海道初の育種認定牛である「平莉」の異父弟です。

本牛は、産肉能力、増体能力の改良に期待する種雄牛です。また、体積が充実しており、均称が良く、品位、前軀が優れています。

発育が良く、体伸に富み、体上線が強く、骨じまりの良い産子が生産されています。

個体識別番号: 15573-9455-0 平成30年7月22日生
黒原6269 86.6点
生産: 平取町 賀集 昭知氏



H黒-337

勝早桜5×幸紀雄×安福久
奈美桜

平成27年6月から3期にわたり北海道育種価脂肪交雑1位にランクされ、現在も高い育種価を有する高育種価雌牛「ななみ」(父:安福久、母の父:平茂勝)。その「ななみ」に産肉能力に定評のある気高系種雄牛「幸紀雄」を交配した母牛「かおり」にさらに気高系種雄牛「勝早桜5」を交配し誕生した本牛は、増体能力、産肉能力の改良に期待する種雄牛です。

本牛は体伸に富み、後軀、資質に優れています。

発育が良く、体積に富み、腿が充実した産子が生産されています。

個体識別番号: 14110-2091-5 平成30年10月3日生
黒15586 83.2点
生産: 新得町 千葉 典弘氏
繁殖: 豊頃町 (株)武隈ブリーディングファーム



H黒-327

勝早桜5×北乃大福×百合茂
勝俊桜

母「さい」は、脂肪交雑119位(平成28年6月北海道育種価)にランクされ、3産目の雌肥育(父:勝早桜5)でA-5、枝肉重量519kg、ロース芯面積83cm²、BMS No.12、ほか2頭も5等級を記録した高育種価雌牛です。

祖母「ゆりこ」も脂肪交雑100位(平成28年6月北海道育種価)にランクされており、親子2代にわたって高い産肉能力を示しています。

本牛は、産肉能力、増体能力の改良に期待する種雄牛です。また、発育が良く、前軀幅、肋張りが充実しており、後軀が優れています。

発育が良く、体積に富み、資質、骨じまりに優れた産子が生産されています。

個体識別番号: 13713-4677-3 平成30年4月10日生
黒原6266 84.7点
生産: 新ひだか町 畑端 博志 氏



勝早桜5後継 現場後代検定 実施種雄牛

H黒-345

勝早桜5×百合茂×福之國
咲早桜5

母「さき」は、脂肪交雑130位(平成30年1月北海道育種価)にランクされ、3産目の去勢肥育(父:光平照)でA-5、枝肉重量571kg、ロース芯面積78cm²、BMS No.12、9産目の去勢肥育(父:安福久)でA-5、枝肉重量558kg、ロース芯面積90cm²、BMS No.11を記録。ほか2頭も5等級を記録した高育種価雌牛です。

本牛は、審査得点85.2点を記録し、産肉能力、体型の改良に期待する気高系種雄牛です。また、発育が良く、体仲に富み、資質、骨味に優れています。

個体識別番号: 15818-8266-5 平成31年4月26日生
黒原6341 85.2点
生産: 上士幌町(有)福澤農場



▶ MOVIE

H黒-344

勝早桜5×安福久×安茂勝
北美咲

母「みさき351」は、脂肪交雑1位(令和3年7月北海道育種価)にランクされ、初産の去勢肥育(父:晴金平)でA-5、枝肉重量571kg、ロース芯面積103cm²、BMS No.12、4産目の去勢肥育(父:芳之國)でA-5、枝肉重量552kg、ロース芯面積98cm²、BMS No.12を記録した高育種価雌牛です。

本牛は、審査得点85.4点を記録し、産肉能力に加え、体型の改良にも期待する気高系種雄牛です。また、発育が良く、体仲に富み、資質に優れ、体上線が強い「勝早桜5」の後継種雄牛です。

個体識別番号: 15675-6356-4 平成31年4月24日生
黒原6340 85.4点
生産: 豊頃町(株)武隈ブリーディングファーム



▶ MOVIE

Sire サイア

発行所／一般社団法人 ジェネティクス北海道
発行人／石村 正志 令和3年12月15日号

Vol.452

特別号



「勝早桜5」

画：富田 美穂 HP「MIHO TOMITA 牛の木版画と絵画」<https://tomitamiho.com/>



一般社団法人
ジェネティクス北海道
GENETICS HOKKAIDO assoc.

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F
<https://www.genetics-hokkaido.ne.jp> →



Twitter
@gh_assoc
Facebook
@genetics.hokkaido
YouTube
ジェネティクス北海道

事業推進部

〈情報企画課〉
TEL(011)242-9645
FAX(011)242-9651
〈肉牛改良課〉
TEL(011)242-9647

●道北事業所……………	TEL(0166)57-6111	FAX(0166)57-6113
●道東事業所……………	TEL(0153)72-4554	FAX(0153)72-1325
●道央広域事業所 道央	TEL(011)375-4422	FAX(011)375-4411
広域	TEL(011)375-4395	(都府県 担当連絡先)
●十勝北見事業所……………	TEL(0156)63-3838	FAX(0156)63-3839
●十勝清水種雄牛センター……………	TEL(0156)62-2158	FAX(0156)62-2150
●道央種雄牛センター……………	TEL(011)375-3939	FAX(011)375-2330